

豊田工業高等専門学校 平成23年度 自己点検評価書

	平成23年度年度計画(4月提出)の概要	平成23年度実績報告(自己点検)
<p>【1. 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</p>	<p>①学生募集活動 学校説明会、オープンキャンパス、職員による学校訪問、学生の卒業中学校訪問、中学校進路指導教員との情報交換会の企画、中学校長会でのPRを行うことに加え、新たな取組として、校長の中学校個別訪問による情報提供・PRの実施する。</p> <p>②女子学生の確保 ・入寮を希望する女子学生及び男女入寮希望者数の変動に対応するため、学生寮の増築について検討する。</p> <p>③入試方法の改善 引き続き入試方法の見直しを行い、優秀な志願者確保のための改善を行う。選抜方法及び推薦選抜方法による定員の見直し等を検討するとともに、募集要項のダウンロード化を推進し、出願できるようにする。</p>	<p>①学生募集活動 学校説明会(16回)、オープンキャンパス(10月8・9日)、こうよう祭(11月5・6日)における進路相談コーナー、教員による愛知県内全中学校(静岡県、岐阜県の一部を含む)を対象とした訪問(一部離島、分校は除く)、1年生を主とした学生の卒業中学校(母校)訪問、名古屋市内中学校の進路指導担当教員と本校教員との情報交換会(7月28日)を実施、愛知県私塾共同組合主催の学校説明会に参加(10月14日)、豊田市中学校校長会の席において校長が学校説明実施、卒業生同伴による校長の中学校個別訪問を実施等、情報提供・情報収集を行った。その効果は、今年度の応募者数の増加につながった。</p> <p>②女子学生の確保 入寮を希望する女子学生に対応するため増築を計画、昨年度までに施工図面を完成し、今年度予算措置される予定であったが、予算措置がされていないため、次年度以降に持ち越しとなる予定である。 校内の4か所のトイレの改修を行い、女子用トイレを増やした。このことは、女子学生に大変喜ばれることとなった。中学校訪問の際、女子学生を同行し、本校を紹介した取組により、今年度の女子の志願者が増加した。</p> <p>③入試方法の改善 選抜方法の見直しをはかり、平成25年度募集要項から選抜基準を変更し、その内容を掲載することとした。</p>
<p>(2) 教育課程の編成(学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等)</p>	<p>①学科及び専攻科の構成・改組等 当面現状を維持することとし、引き続き教育改善推進室、キャリア教育支援室等で社会情勢の変化等に対応するための調査研究を進める。</p> <p>②専攻科の充実 科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座等に積極的に参加させる。</p>	<p>①学科及び専攻科の構成・改組等 当面現状を維持することとし、引き続き教育改善推進室、キャリア教育支援室等で社会情勢の変化等に対応するための調査研究を進める。 ・授業アンケートを前期と後期に実施し、それぞれの結果を公開した。また、1月11日には学生との対話会を設け、学生からの意見を聴取し、今後、改善すべき事項を確認した。 ・教育改善推進室は、FD活動として、授業公開週間の設定・実施、FDシンポジウムとしての講演会の開催及びFD小セミナーを開催した。また、「授業改善のためのアンケート」を前期と後期に実施・集計し、改善に資するよう学生・教員に結果を公表し、全教員からこれらに対する改善策も報告させ、確認した。その他「卒業生アンケート」及び「授業に関する学生との対話会」を実施し、学生が苦手としている科目、わかりにくい授業科目、社会で直接役に立つ分野・科目の特徴をそれぞれ分析した。対話会では学生からの直接の意見を教員に紹介し、改善項目として重要と判断されるものは対応を審議し、検討していくこととした。 ・キャリア教育支援室は、キャリア教育支援プログラムとして、人間力講演会等を実施した。また、キャリア教育に関して先進的な取組を実施している高専を訪問し、取組内容を調査予定である。(3月末に訪問)</p> <p>②専攻科の充実 科学技術振興事業費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座に積極的に参加させた。受講生にとって、技術者となるための新たな目覚めとなった。 専攻科生 電子機械工学専攻27名、情報科学専攻18名 計45名</p>

豊田工業高等専門学校 平成23年度 自己点検評価書

	平成23年度年度計画(4月提出)の概要	平成23年度実績報告(自己点検)
(3)優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)	<p>①採用方針(女性教員採用) 科学技術振興事業団の研究者人材ベースに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に継続して教員公募に関する周知を行い公募制を積極的に導入し、全国から有能な人材の確保に努める。また、能力等が同等なら積極的に女性を採用する方針である。</p> <p>②他機関との交流 高専・両技科大との教員交流制度を積極的に活用する。 21年度派遣2名 受入0名、22年度派遣1名 受入2名 23年度派遣0名 受入1名</p> <p>③FD ・教育改善室において本校の特性を踏まえた教材や教育方法について討議するとともに教育方法について情報交換を行う。 ・FDセミナーを開催しさらなる教育の質の向上を図る。</p>	<p>①採用方針(女性教員採用) 4学科の教員公募を(5回)行い、公募内容にも「女性教員採用」について、能力等が同等なら積極的に採用する旨記載した。残念ながら、今年度の採用はなかったが、今後、採用に向けて努力する。</p> <p>②他機関との交流 高専・両技科大との教員交流制度を活用した。他機関の情報を得るとともに相互理解に有効なため、引き続き、推進していく。 23年度派遣0名、受入1名(平成22年度からの継続(2年間))、24年度:受入・派遣各1名ずつ交流予定(1年間)</p> <p>③FD FDシンポジウム「あなたの教育に かける思いを教えてくださいーティーチング・ポートフォリオの紹介ー」を開催(8月29日)校長を含む61名の教員が参加した。その結果、多くの教員には好評であり、FDとして有効であったことから、次年度以降も効果的な企画を開催して行くこととしている。</p> <p>④働きやすい職場環境の整備 ・一般管理棟の便所の改修に当たり、女子用便所を増設し、利用環境の向上を図った。</p>
(4)教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用等)	<p>①自己点検評価 自己点検評価を行い、外部評価委員会を開催する。</p> <p>②JABEE認定 JABEE認定で指摘を受けた事項について対応を進める。</p> <p>③企業人材の活用 科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」のカリキュラム及び非常勤講師として、現役の企業技術者が一部の授業を担当していただく。</p>	<p>①自己点検評価 教育、学生支援、研究活動、課外活動等の自己点検評価を行い、平成24年3月27日(火)に外部評価委員会を開催し、助言や提言を得る予定である。その評価結果を報告書に取りまとめ公表し、今後の改善に役立てることにしている。</p> <p>②JABEE認定 昨年度までに5学科とも継続認定され、大学レベルの教育機関として社会的評価を得るため専門教育プログラムを実施している。 課題となっている学生の達成度評価方法について、現在、本校の教育目標について、ペーパーによるアンケートを実施しているが、将来的に磁気情報(教育目標・授業科目ごと)による実施に切り替える検討を行ってきたが、システムの構築に苦慮しており、さらに検討を進めていく。</p> <p>③企業人材の活用 科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」の前期カリキュラムにおいて、現役の企業技術者が一部の授業を担当した。このことは、受講者にとって現場での最新技術や情報が得られる有意義な講義となっている。 (株)デンソー及びデンソー技研センター 計7名</p>

豊田工業高等専門学校 平成23年度 自己点検評価書

	平成23年度年度計画(4月提出)の概要	平成23年度実績報告(自己点検)
<p>(5) 学生支援・生活支援 (メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育 等)</p>	<p>①メンタルヘルス 機構等が開催する教職員を対象としたメンタルヘルス講習会に積極的に参加させるとともに、本校においても学生・教職員を対象とした講習会を開催する。</p> <p>②生活支援 寄附金を活用した学生生活支援体制の推進を図る。</p> <p>③キャリア教育 キャリア教育支援室を中心に、キャリア教育のあり方をまとめ、学生支援に反映させる。</p>	<p>①メンタルヘルス ・本年は、職員を対象としたメンタルヘルス健康管理講習会に代えて、2月17日に「高血圧、脂質異常症、糖尿病(プラス肥満)の対策」を産業医による健康管理講習会(安全衛生委員会主催)を開催した。 職員は、日頃の運動不足について痛感するよい機会となった。なお、来年度はメンタルヘルス健康管理講習会を開催する予定である。 ・9月8日～9日 平成23年度東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会(相談室長、看護師、カウンセラー計3名出席) ・11月28日～30日 第49回全国学生相談研修会(相談室長出席) ・12月16日 平成23年度「学生相談インターカーセミナー」(相談室長出席) ・1月27日～28日 全国メンタルヘルス研究集会(校長、相談室長、看護師出席) 職員を積極的に研修会等に派遣していることは、学生のメンタルヘルスを考える上で、有効に役立てている。</p> <p>②-1 生活支援 学生生活支援体制について検討し、特に寮務に係る事務体制を充実させた。学生に利便を図る機会が増え、このことで、寮生から好評を得ている。</p> <p>②-2 図書館及び寄宿舎の整備 ・図書館における空調機改修を検討している。 ・老朽化した寄宿舎留学生用浴室の整備を行い、アメニティの向上を行った。 ・寄宿舎空調機導入を計画している。 ・寄宿舎新営を計画している。</p> <p>③キャリア教育 キャリア教育支援室を立ち上げ、キャリア教育のあり方をまとめ、まず、1年生の合宿研修を実施し、各種講習会等を学年団等と共に計画し、実施した。キャリア教育に関して先進的な取組を実施している高専を訪問し、取組内容を調査し、その結果を次年度以降の活動に生かしていく予定である。</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用 (施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備 等)</p>	<p>①施設マネジメント ・施設整備計画に従い、計画的に施設整備を行うよう努める。 ・現有施設を長期間使用するための長期的整備計画を立案し、推進する。</p> <p>②教育環境充実 全教室配置のプロジェクトの計画的更新を図る。</p> <p>③環境配慮 温暖化効果ガスの削減を図るとともに省エネ対策を構築する。</p> <p>④寄宿舎整備 ・空調機の設置を検討をする。 ・男女入寮希望者の変動に対応するため学生寮の増築を検討する。</p>	<p>①施設マネジメント 施設整備専門部会における学内営繕の効率的執行の決定や、5か年整備計画に基づく、営繕、施設概算の要求を部会で取りまとめ、施設整備計画委員会において整備計画を策定した。 また、50年先を見据えたキャンパスマスタープランの作成に対して、将来計画委員会の下で計画することとした。 ・井水を飲料水に利用する計画を検討している。 ・ボイラーを廃止しCO2削減を検討している。</p> <p>②教育環境充実 ・平成20年度より講義室32か所の更新を計画的に進め、今年度、残り3か所を行い、全て完了した。 ・一般管理棟の便所の改修を行い、利用環境の向上をはかった。 ・合宿研修所便所、洗面所の改修を行い、施設利用環境の向上をはかった。 ・老朽化した寄宿舎留学生用浴室の整備を行い、利用環境の向上をはかった。 ・改修部分については、高効率照明や節水型便器を採用し、省エネに取り組んだ。</p> <p>③環境配慮 環境管理委員会におい節電対策として、空調温度管理等、フェーズ設定による具体的な段階的取組を示した一覧を作成し、校内に周知を図り、全校的に取り組んだ。</p> <p>④寄宿舎整備 営繕要求による空調機の整備要求を行い、また、昨年度、設計業務が完了している寄宿舎新営の要求を昨年度に引き続き、機構本部へ要望するとともに、寮内の住環境の整備に努めた。</p>

豊田工業高等専門学校 平成23年度 自己点検評価書

	平成23年度年度計画(4月提出)の概要	平成23年度実績報告(自己点検)
<p>【2. 研究に関する事項(外部資金獲得、産学連携、知財管理 等)】</p>	<p>①外部資金獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に採択された科学技術振興調整費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムは3年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため2期目の受講生を受入れる。 ・科学研究費補助金は、毎年、採択件数が上位となっており、原則として全教員申請とし、引き続き資金獲得に努める。 ・受託研究・共同研究・奨学寄附金については、今後も積極的に資金獲得に努める。 ・3年間実施した、質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)2件、「多読・多聴による英語教育改善の全学展開～苦手意識を早期に克服し、自律学習を継続させ、英語運用能力を顕著に向上させる新しい英語教育の展開・伸張～」と「ボランティア活動を活用した実践教育～防災教育・環境・町づくりボランティア～」を自立化して、確実な成果をあげる。 ・3年間実施した、戦略的産学連携支援事業「工科系コンソーシアム」によるものづくり教育の拠点形成」を自立化して、連携大学と協力し確実な成果をあげる。 ・教育・研究関連の各種事業募集に積極的に応募し、新規外部資金獲得を目指す。 <p>②知財管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員等を対象とした知的財産のための講演会・講習会を開催し、特許出願を推進する。 	<p>①外部資金獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に採択された科学技術振興調整費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムは3年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため、2期目の受講生31名を受け入れた。また、プログラムの自立化に向けて順調に進んでいる。 ・外部講師を名古屋大学から招へいし、科学研究費補助金に関する説明会を9月16日(金)に開催した。教員58名、その他15名計73名が参加した。 53名(継続者を除く)が申請し、引き続き資金獲得に努める。 ・受託研究・共同研究・奨学寄附金については、今後も情報提供するなど積極的に資金獲得に努める。 受託 3件 共同研究 7件 奨学寄附金 20件 ・多読・多聴による英語教育改善の全学展開では、3年間の実績をもとに、継続して実施している。専攻科1年生(電気・電子システム工学科卒業生)のTOEIC(年間自己ベスト)平均点が2011年度も500点を越え、確実な成果をあげている。 ボランティア活動を活用した実践教育では、豊田市学生による町づくりの会に、継続的に本校からボランティアとして多くの学生が参加しており、さらに、豊田市中心市街地活性化を目的としたパブリカにも多くの学生が現在も参加している。また、昨年度から本校に防災・減災ボランティア団体「TNCT義勇隊」を結成し、東日本大震災への募金活動等の活動を行ってきている。 ・3年間実施した、戦略的産学連携支援事業「工科系コンソーシアム」では連携校が主催した公開講座に職員を2名派遣するなど成果をあげている。 ・平成24年度に向けて、教育・研究関連の各種事業募集に積極的に応募し、新規外部資金獲得を目指す。 応募件数 14件 採択 6件 <p>②知財管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、教職員等を対象とした知的財産のための講演会・講習会を開催することができなかったので、来年度に開催する方向で計画している。
<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入 等)】</p>	<p>①地域技術者育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し地域の技術者育成に貢献する。 ・豊田市ものづくり人材育成講座「製造技術者育成プログラム」に会場の提供及び講師の派遣を行う。 <p>②理科教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのネットワークを構築し、公開講座及び出前授業の実施、地域企画事業への積極的に参加する。 <p>③学生の海外派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識・経験を育てるため、多くの学生が海外留学しており、積極的に海外留学をサポートする。 	<p>①地域技術者育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し地域の企業技術者育成に貢献した。 ・平成23年度ものづくり人材育成講座を開講(豊田市・豊田商工会議所と連携)し、本校教員の知識、技術を提供し、技術者育成に貢献した。 <p>②理科教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、公開講座及び出前授業の実施、地域の企画事業等へ積極的に参加し、小中学生等の理科好きを育成のための支援や啓発に努め、好評を得た。 理科工作教室2件 公開講座11件 出前事業7件 地域貢献16件 <p>③学生の海外派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの弾力的な運用により、海外留学支援を積極的に推進している。その結果、今年度も約30名が10か月程度留学している。 派遣国は、アメリカ、フィリピン、メキシコ、中国、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、ハンガリー、ベルギー、ドイツ、オーストリア、イタリア、マレーシア、ブラジル、スイス、ホンジュラス、パナマ、コスタリカ、タイ、チリ <p>④留学生受入れ拡大に向けた環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した寄宿舎留学生用浴室の整備を行い、利用環境の向上をはかった。 ・要求中の寄宿舎新営において、留学生スペースも計画し、整備する予定である。

豊田工業高等専門学校 平成23年度 自己点検評価書

	平成23年度年度計画(4月提出)の概要	平成23年度実績報告(自己点検)
<p>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流 等)】</p>	<p>①危機管理体制 リスク管理室を設置する。 従来、作成してある災害・緊急事態対応マニュアル・インフルエンザ対応マニュアル・情報セキュリティに関するマニュアル等を一体化した危機管理マニュアルを策定し、対応する。</p> <p>②教職員の適正な服務監督・健康管理 原則、総務課事務室にある出勤簿へ出勤後押印させ、休暇簿についてもその場で記入する方法により、出勤・休暇状況を把握するようにしている。病休・休職等の対応については、該当学科主任から人事労務係へ連絡するとともに、速やかに校長へ相談し授業の代替等を検討するようにしている。</p> <p>③職員の研修 教員は教員教育研修会への参加を勧め、事務職員や技術職員は能力の向上のため、高専機構、文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会へ積極的に参加させる。</p> <p>④人事交流 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用し、他高専・大学等と人事交流を積極的に行う。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極</p>	<p>①危機管理体制 本校における危機管理を総合的かつ計画的に推進するため、危機管理室を設置し、その具体的運営について検討を進めることとしている。 総合的な危機管理マニュアルの作成に向けて、情報収集を行い、作成準備を進めた。</p> <p>②教職員の適正な服務監督・健康管理 原則、総務課事務室にある出勤簿へ出勤後押印させ、休暇簿についてもその場で記入する方法により、出勤・休暇状況を把握するように努めた。病休・休職等の対応については、すみやかに該当学科主任から人事労務係へ連絡するとともに、校長へ相談し授業の代替等を検討するようにした。このことは、教員に順調に浸透してきている。</p> <p>③職員の研修 教員は教員教育研修会への参加を勧め、事務職員や技術職員は能力の向上のため、高専機構、文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会へ積極的に参加させ、その成果を、業務に生かした。 研修参加者 教員12名 事務職員21名 技術職員3名</p> <p>④人事交流 教員については、交流制度により1名を受け入れた。事務職員については、名古屋大学から受入8名、岡崎統合事務センターと相互に1名(受入・派遣)の交流を実施した。その結果、職員の活性化が図られ他機関の情報を得るとともに相互理解に有効であり、業務改善の一躍ともなった。</p>
<p>【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し等)】</p>	<p>①一般管理費 ・さらに光熱水料の縮減を検討する。 ・照明機器の省エネタイプの導入、学生寮の受電統合を検討する。</p> <p>②職員配置 ・業務改善、業務マニュアルの見直しにより、各課・系の業務内容を把握し整理を行い、人員の適正配置等を検討する。 ・平成22年度から全職員について労働時間の有効活用を図るため、変形労働制を導入した。今後は、各職員の時間外労働時間を含む労働時間を把握し、さらなる個人毎の労働時間有効活用を促進する。</p>	<p>①一般管理費 環境管理委員会において、空調温度管理等、フェーズ設定による具体的な段階的取組を示した一覧の作成による学内周知を行い、節電等の対策に努め、縮減を図った。 また、校内全体の元メーターである水道検針を日々記録することで、漏水の早期確認を行っている。 ・改修部分については、高効率照明や節水型便器を採用した。 ・校舎地区と寄宿舎地区の電源引込を1本に統合し、契約電力の削減を計画している。 ・寄宿舎地区の井水を飲料水に利用する計画を検討し、経費削減を計画している。</p> <p>②職員配置 ・業務マニュアルの見直し、各系の業務量の把握等を行い、人員の適正配置等を検討している。 ・事務職員及び技術職員への変形労働制導入に伴い、労働時間の有効活用と併せて、近年増加傾向にあった時間外労働時間数(超過勤務手当額)の削減効果も確認できた。引き続き、更なる有効活用を目指している。 (超過勤務手当額(千円) H20年度 14,037・H21年度 15,801 (導入後) ⇒ H22年度 13,257)</p>

豊田工業高等専門学校 平成23年度 自己点検評価書

	平成23年度年度計画(4月提出)の概要	平成23年度実績報告(自己点検)
【6. その他】	<p>①創立50周年事業について準備を進める。</p> <p>②本校の視察・見学を希望する海外の学生、技術者等を積極的に受け入れる。</p>	<p>①創立50周年記念事業 同窓会、教育後援会、学校の三者による創立50周年記念事業実行委員会を設置した。第1回委員会を開催し、実施事業等について学校側の方針を説明し、協議を行った。また、実行委員会の下に記念行事専門部会、記念誌専門部会、記念事業募金専門部会を設置し、具体的な検討を進めていく。 募金活動の計画を立て、趣意書の作成を行う等、平成24年4月に募金が開始できるよう準備を進めた。 記念誌専門部会において、記念誌刊行までのスケジュール及び記念誌の構成を決定し、執筆者に対し原稿作成の依頼を行った。</p> <p>②・東ティモールの学生13名が本校を訪問(6月1日)し、施設見学や本校学生と情報交換を行った。学生間の交流では折り紙、けん玉など日本文化にふれあい有意義な交流となった。 ・JICA「産業技術境域」研修者9名(スリランカ他7カ国)が本校を訪問(10月20日)し、情報交換、施設見学等を行った。 本年の訪問者は2件であったが今後、外国からの訪問者を積極的に受け入れていくこととしている。</p>